

I 全体評価

1 総 評

第四期中期目標期間の3年目となる令和7年度は、全体として年度計画を順調に実施しており、中期計画の達成に向け概ね着実な業務の進捗状況にある。

○ 高く評価すべき事項

<病院部門>

- ・ 四つの重点医療（血管病、高齢者がん、認知症及び高齢者糖尿病）について、高度な技術を活用した鑑別診断や低侵襲な治療、法人の知見を生かした専門医療の提供など高齢者の特性に合わせた医療の提供に努めた。
- ・ 特に高齢者がん医療について、手術支援ロボットの対象領域を拡大し、手術件数を増加させるなど低侵襲な治療や多職種による緩和ケアの推進を図った。
また、認知症医療について、認知症抗体医薬の継続投与を行う連携医療機関の拡充や患者家族を支援する交流会の開催など、医療提供体制を充実させた。

<研究部門>

- ・ 予後が特に悪い膵臓がんに対する新たな治療戦略を提示したことや、損失に訴求したメッセージが高齢者の行動意欲向上に有効であることを示したことなど、高齢者に特有な疾患と老年症候群の克服に向けた研究や高齢者の地域での生活を支える研究を推進した。
- ・ 医療・研究の一体的取組により培ったセンターの知見等を生かし、将来の認知症リスクを確認できるツールの公開による生活習慣改善の啓発、認知症検査手法としての血液バイオマーカーの開発研究の推進、アミロイドPETによる薬効評価ツールの開発を通じて、東京都の認知症施策の推進に貢献した。

○ 改善・充実を求める事項

- ・ 第四期中期目標期間に新たに重点医療に位置付けた高齢者糖尿病医療について、治療と合わせたフレイル予防・認知症予防の取組の推進や得られた知見の

発信など、医療の充実に取り組まれない。

- ・ 救急医療について、救急車による患者受入数の増加に向けて一層の取組強化を行うとともに、法人の強みを生かした高度な医療提供を必要とする患者の積極的な受入に引き続き取り組まれない。
- ・ 医療経営を取り巻く環境が厳しい中であっても、経営基盤を安定させ適切な運営ができるよう、収入確保とコスト削減に向けて診療科ごとの入院単価等の経営指標をきめ細かく把握・分析し、実効性のある改善策に取り組まれない。

2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

＜高齢者の健康長寿を支える医療の提供・普及＞

- ・ 血管病医療について、増床した脳卒中ケアユニット（ＳＣＵ）を活用し、急性期脳卒中患者を受け入れるとともに、早期からのリハビリ導入による治療後の早期回復に向けた取組や心不全看護外来における患者の退院後の療養生活を支援する取組など、高齢者の多様な症例に対して適切な医療を提供した。
- ・ 高齢者がん医療について、手術支援ロボットの対象領域を拡大し、手術件数を増加させるなど、高齢者の特性に合わせた低侵襲な医療の提供に取り組んだほか、がん相談支援センターにおける相談対応や多職種連携による緩和ケアの対応など、がん医療の充実を図った。
- ・ 認知症医療について、患者の通院負担の軽減を図るため認知症抗体医薬レカネマブやドナネマブの継続投与を行う近隣医療機関を拡充したほか、地域の医療従事者等の育成や新たに認知症抗体医薬に関する患者家族交流会を開催するなど、地域における対応力向上に貢献した。
- ・ 高齢者糖尿病医療について、センターの知見を生かした専門医療の提供や合併症の予防、多職種による栄養指導に取り組むとともに、地域の医療機関との症例検討等を通じたネットワークの構築を推進した。
- ・ 高齢者に特有な疾患に対応した専門医療の提供や、多職種協働による入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を行うとともに、フレイル段階での予防と治療を行うモデルの確立・普及に努めた。
- ・ 地域医療支援病院として、紹介・逆紹介率の向上や医療機関への案内書送付等を通じて連携医数を増やしたほか、地域の訪問看護ステーションとの相互研修、在宅療養に向けた入退院支援などの取組を通じて、地域医療機関等との連携強化に取り組んだ。

＜高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究、法人の資源を活用した政策課題への対応＞

- ・ 高齢者に特有な疾患と老年症候群の克服に向けた研究について、予後が特に悪い膵臓がんに対して新たな治療戦略を提示したほか、顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーに関する新たな治療法検討に寄与したなど、老年医学研究を推進した。
- ・ 高齢者の地域での生活を支える研究については、レセプト分析により、血液抗凝固薬の処方と脳出血による入院リスクの上昇との関連を明らかにしたことや、損失に訴求したメッセージが高齢者の行動意欲向上に有効であることを示したなど、地域における高齢者支援に資する研究成果を上げた。
- ・ 日本老年学会などにおいて多数の学会発表を行ったほか、競争的研究資金への応募・採択件数を伸ばすとともに、高齢者ブレインバンクを活用した研究を推進するなど、老年学研究におけるリーダーシップを発揮した。
- ・ 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターの運用を通じて、自治体事業の推進支援やフレイルサポート専門職等の人材育成を推進するとともに、スマートウォッチを活用したアプリによる区市町村のフレイル予防の取組に対する効果検証を行うなど、東京都の介護予防・フレイル予防施策に貢献した。
- ・ 医療・研究の一体的取組により培ったセンターの知見等を生かし、将来の認知症リスクを確認できるツールの公開による生活習慣改善の啓発、認知症検査手法としての血液バイオマーカーの開発研究の推進、認知症抗体医薬に関するアミロイドPETによる薬効評価ツールの開発等の研究を通じて、東京都の認知症施策に貢献した。

＜高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成＞

- ・ 健康長寿医療研修センターを中心とした研修医等向け内科救急研修など院内研修体制を充実させるとともに、看護実習生や学生の受入れ及び看護大学等への講師派遣やフレイルサポート専門職育成に継続的に取り組むなど、高齢者の医療と介護を支える地域の専門人材の育成を推進した。

3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- ・ 病院・研究所の一体的運営を行うとともに、職員提案制度による業務改善、医師の超過勤務抑制、年休取得の進行管理などにより、ライフ・ワーク・バランスの推進に努めた。
- ・ 内部監査における監事との連携、会計監査人からの意見・指摘等を踏まえた業務の適正性の確保や、コンプライアンス研修の全員受講、外部評価委員会の評価結果の公表など、法人の健全性、透明性確保に取り組んだ。
- ・ 医療経営を取り巻く環境が厳しい中において、医業収入確保とコスト削減に向けて法人を挙げて経営改善に取り組んだものの、主要な経営指標である経常収支比率や医業収支比率が前年度を下回り、今年度の目標に届いておらず、計画を上回る 24 億円の純損失を計上した。

4 その他

（中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望など）

- ・ 令和 8 年度は、第四期中期目標期間の 4 年目となる。目標達成に向けては、第四期中期計画の終期を見据え、着実に成果を上げていくことが重要である。
- ・ 引き続き、収入確保と適切な支出管理を徹底し、安定的な経営基盤の確立を図るとともに、東京都における高齢者医療・研究の拠点として、将来にわたり安定的かつ継続的にその役割を果たせるよう、目標達成に向けて法人一丸とな

って取り組むことを期待する。